

平成 2 1 年度

事 業 報 告 書  
収 支 決 算 書

財団法人 大阪 2 1 世紀協会

## 目 次

平成 2 1 年度事業報告 . . . . .	1
I 概要 . . . . .	1
II 各事業の実施概要 . . . . .	3
平成 2 1 年度収支決算 . . . . .	1 4

# 平成21年度事業報告

## I. 概要

当協会は、「世界都市・大阪」の創生をめざす「大阪21世紀計画」の理念に基づき、オール大阪の取り組みを推進するコア機関として、29年間にわたって活動を展開してまいりました。

しかしながら、近年、行政において財政改革の取り組みが加速するなかで、当協会に対する大阪府、大阪市による人的・資金的な支援は平成20年度をもって打ち切られました。

これをうけ、平成21年、当協会は、「関西・大阪の文化力向上」という使命を果たすにあたり民が支える組織として自立的に活動するべく、大幅な組織、財務の改革を断行しました。

一方、関西・大阪の文化を取り巻く状況は依然として厳しく、市民・企業のみなさまからの文化力向上のための取り組みに対する期待は以前にもまして高まっています。このため、当協会は、これまで培ったノウハウやネットワークを生かしながら以下の事業を積極的に展開してまいりました。

### ○ネットワーキング（さがす・みがく）

#### ◇関西・大阪の文化力向上

関西・大阪の文化力向上のため、当協会のネットワークを活用し、文化を支えるクリエイティブな人材の発掘と育成につながる活動を展開しました。

特に、「関西・大阪文化力会議」では、文化の第一線で活躍する人々が一堂に会し、関西・大阪の文化の抱える問題点について活発な議論を展開することができました。

#### ◇水都大阪まちそだて

「水都大阪2009」を積極的に推進するとともにOSAKA水上音楽パレードなどの取り組みで水都大阪の魅力をさらに高め、また、大阪城西の丸庭園の魅力を発信する「西の丸庭園プロジェクト」を実施し、歴史に裏打ちされた大阪のまちづくりに貢献しました。

### ○関西・大阪のイメージ向上（かたる）

関西・大阪の多様なブランド資源を様々な形で内外に発信する活動を展開し

ました。関西のすぐれた景観や季節の風物の映像を、関西空港の税関スペースで放映、また、「多士彩才」という企画では文化を支える人材やその活動をホームページから発信、その成果を編集し、出版するなど話題性のある活動を行いました。

以 上

## Ⅱ. 各事業の実施状況

### 1. 役員会等の開催

#### (1) 理事会

回(年月日)	議 題
第 76 回 (21.6.16)	1. 評議員の選任について
第 77 回 (21.6.28)	1. 執行理事の互選について 2. 平成 20 年度事業報告について 3. 平成 20 年度収支決算について
第 78 回 (21.10.3)	1. 評議員の選任について 2. 財務安定資産の取崩について 3. 有期固有職員に対する再就職支援費の支給について 4. 平成 21 年度事業計画の補正について 5. 平成 21 年度収支予算の補正について
第 79 回 (22.2.9)	1. 平成 21 年度の事業実績と評価について 2. 平成 22 年度事業計画の方向性について
第 80 回 (22.3.30)	1. 会長、理事長及び執行理事の互選について 2. 平成 22 年度事業計画について 3. 平成 22 年度収支予算について 4. 理事等の旅費取扱要綱の改正について 5. 財団法人大阪 21 世紀協会役員報酬に関する規定の廃止について

## (2) 評議員会

回(年月日)	議 題
第 6 1 回 (21. 6. 18)	1. 理事及び監事の選任について 2. 平成 2 0 年度事業報告について 3. 平成 2 0 年度収支決算について
第 6 2 回 (21. 10. 27)	1. 理事の選任について 2. 財務安定資産の取崩について 3. 有期固有職員に対する再就職支援費の支給について 4. 平成 2 1 年度事業計画の補正について 5. 平成 2 1 年度収支予算の補正について
第 6 3 回 (22. 2. 15)	1. 平成 2 1 年度の事業実績と評価について 2. 平成 2 2 年度事業計画の方向性について
第 6 4 回 (22. 3. 15)	1. 平成 2 2 年度事業計画について 2. 平成 2 2 年度収支予算について

## 2. ネットワーキング（さがす・みがく）

関西・大阪の文化力向上、水都大阪まちそだて

### （1）社学連携事業

#### ①関西社会人大学院連合

京阪神の大学・大学院からなるNPO法人「関西社会人大学院連合」と包括協定を締結し協力関係を築きました。また、大阪市、大阪大学、月刊島民プレスが協力して、市民が学ぶ場を提供する「21世紀の懐徳堂プロジェクト」に参画し、運営協力を行いました。

##### i) 関西社会人大学院連合との協力

インテリジェントアレー専門セミナーにおいて都市文化論の講座を提供、好評を博しました。

時 期：平成22年1月～3月（計6回）

場 所：キャンパスポート大阪（大阪駅前第2ビル4階）

内 容：「都市文化論」～まちづくりまち育て講座

受講者：82名

##### ii) 21世紀の懐徳堂プロジェクト

「月刊島民ナカノシマ大学」に講座を提供等

支出：1,820千円      収入：130千円

#### ②200DOORS

大阪で活躍する魅力的な人材を講師に迎え、市民がワンコインで気軽に参加できるワークショップ200講座を夏期に集中的に開講。市民による学びの場の提供、講師・ワークショップコーディネーターの発掘、育成の場として成果をあげました。

主 催：インターナショナル・ワークショップフェスティバル実行委員会

時 期：7月24日（金）～ 8月22日（土）

場 所：大阪市立芸術創造館、芝川ビル、大阪中央公会堂 他

参加者：講師 205名、ワークショップコーディネーター 138名

受講者：3,202名

支出：1,500千円

## (2) 関西・大阪文化力会議

文化の第一線で活躍する関西・大阪の文化人、企業家、学者等を招いた会議形式のシンポジウムを開催し、関西・大阪における文化芸術分野の現状、課題について、議論をおこない共同アピールを発表しました。

主 催：大阪21世紀協会

共 催：大阪国際フォーラム、(株)大阪国際会議場

時 期：平成22年1月28日（木）

場 所：大阪国際会議場

発言者：基調講演2名 分科会30名

参加者：1,000名

支 出：7,005千円 収入：1,185千円

## (3) 人材発掘・育成・交流事業

### ①大阪文化祭賞

芸術文化活動の奨励及び普及を図るなど文化振興の機運を醸成することを目的として、大阪府・大阪市とともに5～6月に大阪府下で行われた公演等を対象に「大阪文化祭」を開催。参加公演の中から注目すべき成果をあげた個人（または団体）に賞を贈呈しました。また、グランプリ受賞者には「関西・大阪文化力会議」の場で演奏会を設け、広くPRしました。

#### 「大阪文化祭賞」

主 催：大阪府、大阪市、大阪21世紀協会

表彰式：平成21年9月2日（水）

応 募：65件

受賞者：6件

支 出：なし

### ②後援等

大阪文化の推進に資する団体、行事、個人について後援名義の使用許可、賞状・楯の授与等を行いました。

### ③若手アーティストの育成（「アートストリーム2009」の開催）

大阪芸術大学、サントリーミュージアムと連携し、公募選考したアーティスト52組による屋外アートマーケット（絵画、イラストなど若手アーテ

イストの作品発表、即売会)を開催。大阪の若いアーティストやクリエイターを発掘し、作品発表の場や出版社・美術館関係者とのビジネスマッチングの場を提供しました。

主 催：アートストリーム実行委員会  
時 期：10月31日(土)、11月1日(日)  
場 所：サントリーミュージアム  
参加者：12,000人  
支 出：1,550千円

#### ④交流(21cafe)

まちづくり、文化活動で活躍するクリエイター、文化人等を招いての交流サロンを開催しました。

時 期：7月28日(火)、12月1日(火)、1月22日(金)  
支 出：511千円 収 入：366千円

#### ⑤企業メセナ協議会等との連携

平成22年1月28日開催の「関西・大阪文化力会議」において、企業メセナ協議会専務理事加藤恒夫氏を招き、同協議会の提唱する「ニューコンパクト」について講演を実施しました。

#### ⑥伝統芸能・行事連携

大阪が誇る文化遺産の伝統芸能(能、狂言、文楽、歌舞伎)や、伝統行事、多様な文化財を擁するミュージアムについて、その情報と魅力を発信しました。また、「伝統芸能教室 伝統芸能へのいざない」では、関西経済連合会と協力し、当協会のネットワークをいかして広報・集客に貢献しました。

##### i) 伝統芸能情報誌「MEET OSAKA」の発行

発行時期：6月、10月、2月 年3回発行 各30,000部  
支 出：5,261千円 収 入：1,645千円

##### ii) 「伝統芸能教室 伝統芸能へのいざない」の開催

主 催：関西経済連合会、大阪21世紀協会  
時 期：3月

場 所：ABC ホール  
参加者：200 名  
支 出：なし

### iii) WEBによる大阪伝統催事の紹介

大阪の代表的な夏祭り 14 件を協会のホームページ（「ブランド情報局 大阪情報最前線」）で紹介し埋もれた大阪の魅力に脚光をあてるとともに伝統行事への関心を喚起しました。

## ⑦「水都大阪」の継続・継承

### i) 「ふえすた・なかのしま・823」の実施

『水都大阪 2009』の開幕にあたり同実行委員会と共催で、メインコンテンツの紹介及び会場となる「中之島水上ステージ」のこけら落としとして、音楽・パフォーマンス等を交え、水辺の賑わいを創出しました。

時期 : 8 月 23 日（日） 10:00～17:00

プログラム：ステージショー（音楽演奏等）、真夏の雪遊び（人工降雪機による雪原での雪遊び）等

来場者 : 2,800 名

支 出 : 2,700 千円 収入 : 2,000 千円（分担金）

### ii) 「水都大阪再発見クルーズ」運航ソフトの利用拡大

大阪の発展に重要な役割を果たしてきた水運の歴史をさまざまな角度からたどり、今日の「水都大阪」の持つ魅力を探る「水都大阪再発見クルーズ」。前年度制作のソフトPRのため、ダウンロード用プレイヤーを揃え、マスコミ向けクルーズ試乗会を実施しました。

マスコミ向けクルーズ試乗会

参 加 : 約 30 名

掲 載 : 5 紙

支 出 : 235 千円

## ⑧コラボレーションによるまちづくり

### i) 「大阪城サマーフェスティバル 2009」

夏季に自治体、経済団体、民間企業等が大阪城・OBP周辺で主催

する多種多様なイベントについて、共同広報などのコラボレーションを図り、大阪城のブランド力向上、大阪の賑わい創出と観光集客をめざしました。当協会は事務局、コーディネイターとしての役割を担いました。

時 期： 7月23日（木）～9月6日（日）

参加団体： 20団体、37プログラム

来場者数： 470,000人（上記37プログラムの合計）

共同広報概要：リーフレット（A4、8P）150,000部

ポスター（B1）1,500部（B2）1,300部

ホームページ 12,300アクセス

無料媒体 JR西日本「おおさか街あそび」

（夏号）200,000部に掲載

支 出 400千円（分担金）

## ii) 「大阪城サマーフェスティバル 2009」

（西の丸庭園プロジェクト）

「大阪城サマーフェスティバル」の新しいコンテンツとして、大阪城西の丸庭園に設置される読売新聞社「大阪薪能」の舞台の共同利用を提案し、自然と調和した大阪城をバックに演劇やコンサート、NHKの番組収録、市が主催する「大阪城 城灯りの景」の開催を実現しました。大阪の魅力を内外に発信できるステージとして大きな手応えがありました。

時 期：8月21日（金）～27日（木）

来場者：合計 38,590名

支 出：500千円（分担金）

プログラムの主催団体

「大阪城 城灯りの景」・・・大阪市

「大阪夏の陣 1615」・・・関西俳優協議会

「あほやねん！すきやねん」（公開収録）・・・NHK大阪放送局

吹奏楽コンサート・・・追手門学院

「大阪城薪能」・・・読売新聞社

### iii) O S A K K A 水上 音楽パレード 2009

「水都大阪2009」ファイナルイベントとして、大川・道頓堀川の水上マーチングパレードを水上安全協会と企画・立案。これまで当協会が「御堂筋パレード」を通じて構築した吹奏楽関係者とのパイプを活かして、高校の吹奏楽団に、船上での演奏機会を提供し、新しい吹奏楽の発表の場をつくりました。また、水都大阪の秋の風物詩として新たな可能性を示しました。

主 催：大阪21世紀協会、NPO 法人大阪水上安全協会

時 期：10月12日（祝・月）

参 加：高校吹奏楽部 2校                      パレード船舶 34隻

場 所：大川（八軒家浜界限）、道頓堀川

来場者：約2,000名

支 出：3,563千円              収入：2,018千円

### 3. 関西・大阪のイメージ向上（かたる）

#### （1）WEB放送局の運営

ホームページにおいては、情報の速報性を高めるため新たにブログ形式による「最新情報」のコーナーを新設しました。

また、関西・大阪の文化イベント情報を網羅する総合的文化イベント情報サイト「関西アートストリーム」を立ち上げました。このサイトはWEBの双方向性を活かして、展覧会、演奏会、その他の文化的イベント等の主催者自らが情報を登録していくことで、情報を幅広く、深く集積することを目指したサイトとなっています。こうした取り組みが奏功し、アクセス数は20年の440万件から534万件と94万件増加しました。

支 出：3,000千円

#### （2）ブランド情報誌「OSAKA＊文化力」の発行等

従来の協会機関誌という位置づけから、関西・大阪のブランド情報発信誌へとスタンスを変更し、大阪の文化に造詣の深い学識経験者やアーティストを取材し、大阪の文化の魅力や課題などを語っていただくなど、質の高い紙面づくりに取り組みました。有識者の文化やまちづくりに関する考えを広く発信する役割を果たしました。

また、「関西・大阪文化力会議」の基調講演や各分科会の発言内容をまとめた合併号として会議の成果を発信しました。

時 期：7月,11月,3月 年3回発行(3月号は文化力会議特集として合併号)

部 数：12,000部

支 出：7,755千円

#### （3）コンテンツ制作 「多士彩才」

大阪で活躍するアーティスト、クリエイター、プロデューサー、まちおこし仕掛け人など、様々な分野で活動する人々にスポットをあて、その活動をホームページで紹介しました。

また、この内容を編集し出版、関西・大阪文化力会議で披露し新聞に取り上げられ、話題になりました。

紹介人数：75名

支 出 : 1,960 千円

#### 書 籍

タイトル : 「多士彩才 人こそ力@大阪のまち」

体 裁 : A5 サイズ 240 ページ、フルカラー

価 格 : 1,700 円

出版元 : 株新風書房

発行部数 : 2,000 部

支 出 : 2,233 千円      収 入 : 418 千円

#### (4) 関西空港等における大阪ブランドの映像発信

関西・大阪を紹介する映像（景観、季節の風物 等）を制作し、関西国際空港税関エリアにおいて放映、関西の多彩な魅力を広く内外にアピール。また、映像は著作権フリーとして二次利用を可能にしたうえで、DVDにおさめ、各領事館に配布して各国でのPRをお願いしました。

時 期 : 通年（4月23日から関西国際空港で放映）

DVD配布 : 平成22年1月28日文化力会議において領事館等に配布

支 出 : 1,251 千円      収 入 : 1,200 千円

#### (5) 御堂筋等におけるバナー展開

御堂筋・長堀通り他の市道の街路灯に在阪球団オリックスバファローズの応援バナーを掲揚しました。

実施時期 4月（平成20年度事業分）

#### (6) 食文化研究

大阪の食文化をブランディングするため、「鍋」に焦点をあてた研究を行い、その成果を「大阪鍋騒動」として小冊子にまとめました。新聞にも取り上げられ、多数の問い合わせがありました。

小冊子「大阪鍋騒動」

時 期 : 3月

部 数 : 5,000 部

支 出 : 705 千円      収 入 : 105 千円

(7) エッセンスオブKANSAI (「Destination KANSAI」)

近畿経済産業局受託事業。関西に住む外国人の目線で、関西の観光スポットを紹介する観光ツールの作成を受託しました。このツールは近畿経済産業局のホームページ上で公開されたほか旅行関係者に配布されています。

支 出：714 千円      収 入：798 千円

以 上

## 平成 2 1 年度収支決算

1 . 収支計算書	P15
2 . 収支計算書に対する注記	P17
3 . 正味財産増減計算書	P18
4 . 貸借対照表	P21
5 . 財産目録	P23
6 . 財務諸表に対する注記	P25

# 収支計算書

(平成21年4月1日から平成22年3月31日まで)

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
(1) 基本財産運用収入				
基本財産利息収入	6,400,000	7,232,919	△ 832,919	
(2) 特定資産運用収入				
特定資産利息収入	600,000	1,324,767	△ 724,767	
(3) 会費収入				
法人賛助会員会費収入	72,190,000	74,818,425	△ 2,628,425	
個人賛助会員会費収入	1,610,000	1,720,000	△ 110,000	
(4) 事業収入				
企画調整事業収入	1,020,000	864,000	156,000	
大阪ブランド推進事業収入	1,998,000	2,521,460	△ 523,460	
コラボレーション促進事業収入	5,902,000	7,675,975	△ 1,773,975	
(5) 協賛金収入				
協賛金収入	10,301,000	7,730,750	2,570,250	
(6) 雑収入				
雑収入	2,939,000	6,927,656	△ 3,988,656	
事業活動収入計	102,960,000	110,815,952	△ 7,855,952	
2. 事業活動支出				
(1) 事業費支出				
企画調整事業費支出	21,571,000	18,000,666	3,570,334	
大阪ブランド推進事業費支出	75,137,000	70,258,580	4,878,420	
コラボレーション促進事業費支出	102,032,000	98,028,148	4,003,852	
事業費支出計	198,740,000	186,287,394	12,452,606	
(2) 管理費支出				
役員報酬	6,390,540	5,942,285	448,255	
給与手当	10,436,906	9,982,633	454,273	
退職金	22,151,250	22,151,250	0	
福利厚生費	2,622,748	2,333,165	289,583	
賞与引当金繰入	516,806	515,970	836	
会議費	400,000	221,324	178,676	
旅費交通費	1,200,000	196,570	1,003,430	
通信運搬費	313,000	270,116	42,884	
消耗什器備品費	0	341,040	△ 341,040	
消耗品費	1,031,000	655,795	375,205	
修繕費	0	4,305	△ 4,305	
印刷製本費	360,000	299,077	60,923	
光熱水費	289,000	312,074	△ 23,074	
賃借料	6,817,000	6,610,309	206,691	
諸謝金	0	60,000	△ 60,000	
租税公課	531,700	376,800	154,900	
委託費	6,216,000	3,808,940	2,407,060	
雑費	3,678,050	3,128,837	549,213	
管理費支出計	62,954,000	57,210,490	5,743,510	
事業活動支出計	261,694,000	243,497,884	18,196,116	
事業活動収支差額	△ 158,734,000	△ 132,681,932	△ 26,052,068	

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
Ⅱ 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入				
(1) 特定資産取崩収入				
退職給与引当資産取崩収入	41,746,000	48,568,528	△ 6,822,528	
財務安定積立資産取崩収入	140,347,000	170,000,000	△ 29,653,000	
行催事積立資産取崩収入	165,000,000	165,000,000	0	
御堂筋にぎわいづくり積立資産取崩収入	0	18,000,000	△ 18,000,000	
投資活動収入計	347,093,000	401,568,528	△ 54,475,528	
2. 投資活動支出				
(1) 特定資産取得支出				
退職給付引当資産取得支出	3,178,000	10,000,000	△ 6,822,000	
財務安定積立資産取得支出	165,000,000	195,000,000	△ 30,000,000	
御堂筋にぎわいづくり積立資産取得支出	0	18,000,000	△ 18,000,000	
投資活動支出計	168,178,000	223,000,000	△ 54,822,000	
投資活動収支差額	178,915,000	178,568,528	346,472	
Ⅲ 財務活動収支の部				
(1) 財務活動収入				
財務活動収入計	0	0	0	
(2) 財務活動支出				
財務活動支出計	0	0	0	
財務活動収支差額	0	0	0	
Ⅳ 予備費支出	3,000,000	0	3,000,000	
当期収支差額	17,181,000	45,886,596	△ 28,705,596	
前期繰越収支差額	30,096,580	30,096,580	0	
次期繰越収支差額	47,277,580	75,983,176	△ 28,705,596	

## 収支計算書に対する注記

1. 収支計算書は、「公益法人会計における内部管理事項について」（平成17年3月23日公益法人等の指導監督等に関する関係省庁連絡会議幹事会申合わせ）に示された3区分の様式により作成している。

2. 資金の範囲

資金の範囲には、現金預金、未収金、未収利息、前払金、立替金、未払金、預り金、賞与引当金及び未払消費税等を含めている。なお、前期末及び当期末残高は下記3.に記載するとおりである。

3. 次期繰越収支差額に含まれる資産及び負債の内訳（単位：円）

科 目	前期末残高	当期末残高
現金預金	56,538,920	76,400,627
未 収 金	308,221	1,125,660
未 収 利 息	1,823,432	1,518,009
前 払 金	2,620,243	567,359
立 替 金	18,700	0
合 計	61,309,516	79,611,655
未 払 金	22,447,814	1,499,338
預 り 金	2,660,359	1,343,071
賞与引当金	6,104,763	515,970
未払消費税等	0	270,100
合 計	31,212,936	3,628,479
次期繰越収支差額	30,096,580	75,983,176

# 正味財産増減計算書

(平成21年 4月 1日～平成22年 3月31日)

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
①基本財産運用益			
基本財産受取利息	7,232,919	7,230,302	2,617
②特定資産運用益			
特定資産受取利息	1,324,767	1,905,449	△ 580,682
③受取会費			
法人賛助会員受取会費	74,818,425	86,787,375	△ 11,968,950
個人賛助会員受取会費	1,720,000	1,330,000	390,000
④事業収益			
企画調整事業収益	864,000	0	864,000
大阪ブランド推進事業収益	2,521,460	2,365,000	156,460
コラボレーション促進事業収益	7,675,975	(※1) 2,020,025	5,655,950
⑤受取協賛金			
受取協賛金	7,730,750	13,854,750	△ 6,124,000
⑥受取補助金等			
受取大阪府分担金	0	142,684,536	△ 142,684,536
受取大阪市補助金	0	142,470,905	△ 142,470,905
⑦雑収益	6,927,656	139,311	6,788,345
経常収益計	110,815,952	400,787,653	△ 289,971,701

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
(2) 経常費用			
①事業費			
企画調整事業費	14,725,818	46,441,023	△ 31,715,205
ブランド推進事業費	64,522,520	146,502,726	△ 81,980,206
コラボレーション促進事業費	81,116,668	(※1) 143,588,956	△ 62,472,288
事業費計	160,365,006	336,532,705	△ 176,167,699
②管理費			
役員報酬	5,942,285	9,639,270	△ 3,696,985
給与手当	9,982,633	9,841,173	141,460
福利厚生費	2,333,165	2,645,350	△ 312,185
臨時雇賃金	0	2,622,100	△ 2,622,100
職員費	0	49,514,998	△ 49,514,998
退職金	8,303,910	699,948	7,603,962
賞与引当金繰入額	515,970	1,368,933	△ 852,963
会議費	221,324	250,900	△ 29,576
旅費交通費	196,570	756,567	△ 559,997
通信運搬費	270,116	361,293	△ 91,177
消耗什器備品費	341,040	59,243	281,797
消耗品費	655,795	2,244,868	△ 1,589,073
修繕費	4,305	98,628	△ 94,323
印刷製本費	299,077	326,782	△ 27,705
光熱水費	312,074	284,560	27,514
賃借料	6,610,309	7,150,936	△ 540,627
諸謝金	60,000	0	60,000
租税公課	376,800	531,700	△ 154,900
委託費	3,808,940	5,198,507	△ 1,389,567
減価償却費	1,046,674	1,121,811	△ 75,137
雑費	3,128,837	1,078,155	2,050,682
管理費計	44,409,824	95,795,722	△ 51,385,898
経常費用計	204,774,830	432,328,427	△ 227,553,597
当期経常増減額	△ 93,958,878	△ 31,540,774	△ 62,418,104

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
①固定資産除却損			
什器備品除却損	6,825	0	6,825
経常外費用計	6,825	0	6,825
当期経常外増減額	△ 6,825	0	△ 6,825
当期一般正味財産増減額	△ 93,965,703	△ 31,540,774	△ 62,424,929
一般正味財産期首残高	288,437,134	(※2) 319,977,908	△ 31,540,774
一般正味財産期末残高	194,471,431	288,437,134	△ 93,965,703
II 指定正味財産増減の部			
①基本財産運用益			
基本財産受取利息	7,529,065	7,526,448	2,617
②一般正味財産への振替額			
一般正味財産への振替額	7,232,919	7,230,302	2,617
当期指定正味財産増減額	296,146	296,146	0
指定正味財産期首残高	519,118,673	(※2) 518,822,527	296,146
指定正味財産期末残高	519,414,819	519,118,673	296,146
III 正味財産期末残高	713,886,250	807,555,807	△ 93,669,557

(※1) 事業の統合により、前年度まで中科目として別掲していた水都・創造事業収益1,888,500円及び御堂筋パレード事業収益12,800円をコラボレーション促進事業収益に、水都・創造事業費101,195,674円をコラボレーション促進事業費に含めている。

(※2) 新会計基準への移行処理について修正すべき点が判明したので、前年度の一般正味財産期首残高を18,526,381円減額し、指定正味財産期首残高を同額増額している。

# 貸借対照表

(平成22年 3月31日現在)

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	76,400,627	56,538,920	19,861,707
貯蔵品	1,201,200	0	1,201,200
未収金	1,125,660	308,221	817,439
未収利息	1,518,009	1,823,432	△ 305,423
前払金	567,359	2,620,243	△ 2,052,884
立替金	0	18,700	△ 18,700
流動資産合計	80,812,855	61,309,516	19,503,339
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
定期預金	279,857	279,857	0
投資有価証券	500,608,581	500,312,435	296,146
基本財産合計	500,888,438	500,592,292	296,146
(2) 特定資産			
退職給付引当資産	13,500,000	52,068,528	△ 38,568,528
行催事積立資産	0	165,000,000	△ 165,000,000
財務安定積立資産	115,000,000	90,000,000	25,000,000
御堂筋にぎわいづくり積立金	18,526,381	18,526,381	0
特定資産合計	147,026,381	325,594,909	△ 178,568,528
(3) その他固定資産			
什器備品	2,287,052	3,340,551	△ 1,053,499
電話加入権	3	3	0
その他固定資産合計	2,287,055	3,340,554	△ 1,053,499
固定資産合計	650,201,874	829,527,755	△ 179,325,881
資産合計	731,014,729	890,837,271	△ 159,822,542

科 目	当年度	前年度	増 減
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	1,499,338	22,447,814	△ 20,948,476
預り金	1,343,071	2,660,359	△ 1,317,288
賞与引当金	515,970	6,104,763	△ 5,588,793
未払消費税等	270,100	0	270,100
流動負債合計	3,628,479	31,212,936	△ 27,584,457
2. 固定負債			
退職給付引当金	13,500,000	52,068,528	△ 38,568,528
固定負債合計	13,500,000	52,068,528	△ 38,568,528
負債合計	17,128,479	83,281,464	△ 66,152,985
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
出捐金	500,888,438	500,592,292	296,146
寄付金	18,526,381	18,526,381	0
指定正味財産合計	519,414,819	(※1) 519,118,673	296,146
(うち、基本財産への充当額)	(500,888,438)	(500,592,292)	(296,146)
(うち、特定資産への充当額)	(18,526,381)	(18,526,381)	( 0)
2. 一般正味財産			
一般正味財産	194,471,431	(※1) 288,437,134	△ 93,965,703
(うち、基本財産への充当額)	( 0)	( 0)	( 0)
(うち、特定資産への充当額)	(115,000,000)	(273,526,381)	(△158,526,381)
正味財産合計	713,886,250	807,555,807	△ 93,669,557
負債及び正味財産合計	731,014,729	890,837,271	△ 159,822,542

(※1) 新会計基準への移行処理について修正すべき点が判明したので、一般正味財産を18,526,381円減額し、指定正味財産を同額増額している。

# 財産目録

(平成22年3月31日現在)

(単位：円)

科	目	金	額
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金			
現金 98,663			
普通預金			
みずほ銀行 大阪支店 14,356,834			
三菱東京UFJ銀行 大阪公務部 14,246,918			
三井住友銀行 大阪公務部 22,166,388			
りそな銀行 大阪公務部 12,855,038			
近畿大阪銀行 本店営業部 1,571,428			
泉州銀行 大阪支店 6,110,782			
池田銀行 本店営業部 4,994,576			
		76,400,627	
貯蔵品（書籍） 1,201,200			
未収金（MEET OSAKA掲載料収入 等） 1,125,660			
未収利息（有価証券利息 等） 1,518,009			
前払金（事務所賃借料） 567,359			
流動資産合計			80,812,855
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
定期預金			
三井住友銀行 大阪公務部 279,857			
投資有価証券			
国債 第268回利付国債 3,099,807			
第269回利付国債 40,101,721			
大阪府債 第253回大阪府公募公債 79,948,071			
大阪府債 平成14年度第11回公募公債 79,948,287			
大阪府債 平成18年度第11回公募公債 297,510,695			
基本財産合計		500,888,438	
(2) 特定資産			
退職給付引当資産			
普通預金 三井住友銀行大阪公務部 3,500,000			
りそな銀行 大阪公務部 10,000,000			
		13,500,000	
財務安定積立資産			
普通預金 りそな銀行大阪公務部 5,000,000			
普通預金 りそな銀行大阪公務部 30,000,000			

科 目	金	額
有価証券		
大阪市債 平成19年第2回みおつくし債	25,000,000	
国債 第52回利付国債	55,000,000	
	115,000,000	
御堂筋大阪のにぎわいづくり積立金		
普通預金 りそな銀行大阪公務部	18,000,000	
普通預金 りそな銀行大阪公務部	526,381	
	18,526,381	
特定資産合計	147,026,381	
(3) その他固定資産		
什器備品 (絵画・彫刻等)	15	
什器備品 (サーバー等)	2,287,037	
電話加入権	3	
その他固定資産合計	2,287,055	
固定資産合計		650,201,874
資産合計		731,014,729
II 負債の部		
1. 流動負債		
未払金		
委託費等 管理費及び事業費	1,499,338	
	1,499,338	
預り金		
所得税	168,986	
住民税	735,600	
保険料	432,445	
その他	6,040	
	1,343,071	
賞与引当金	515,970	
未払消費税等	270,100	
流動負債合計		3,628,479
2. 固定負債		
退職給付引当金	13,500,000	
(うち役員分)	(13,500,000)	
固定負債合計		13,500,000
負債合計		17,128,479
正味財産		713,886,250

## 財務諸表に対する注記

### 1. 重要な会計方針

- (1) 公益法人会計基準（平成16年10月14日公益法人等の指導監督等に関する関係省庁連絡会議申し合わせ）を採用している。
- (2) 有価証券の評価基準及び評価方法について  
満期保有目的の債券・・・償却原価法（定額法）によっている。
- (3) 固定資産の減価償却の方法について  
什器備品・・・定額法に基づいて計上している。
- (4) 引当金の計上基準について  
賞与引当金・・・職員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当期に帰属する額を計上している。  
退職給付引当金・・・役員・職員に対する期末自己都合要支給額の100%を計上している。
- (5) 消費税等の会計処理について  
税込方式によっている。

### 2. 基本財産及び特定資産の増減額及び残高

基本財産及び特定資産の増減額及び残高は、次のとおりである。（単位：円）

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定期預金	279,857	0	0	279,857
投資有価証券	500,312,435	296,146	0	500,608,581
小計	500,592,292	296,146	0	500,888,438
特定資産				
退職給付引当資産	52,068,528	10,000,000	48,568,528	13,500,000
行催事積立資産	165,000,000	0	165,000,000	0
財務安定積立資産	90,000,000	195,000,000	170,000,000	115,000,000
御堂筋にぎわいづくり積立金	18,526,381	18,000,000	18,000,000	18,526,381
小計	325,594,909	223,000,000	401,568,528	147,026,381
合計	826,187,201	223,296,146	401,568,528	647,914,819

### 3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。（単位：円）

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
基本財産				
定期預金	279,857	( 279,857)	( 0)	—
投資有価証券	500,608,581	(500,608,581)	( 0)	—
小計	500,888,438	(500,888,438)	( 0)	—
特定資産				
退職給付引当資産	13,500,000	( 0)	( 0)	( 13,500,000)
財務安定積立資産	115,000,000	( 0)	(115,000,000)	( 0)
御堂筋にぎわいづくり積立金	18,526,381	(18,526,381)	( 0)	( 0)
小計	147,026,381	(18,526,381)	(115,000,000)	( 13,500,000)
合計	647,914,819	(519,414,819)	(133,526,381)	( 13,500,000)

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
什器備品（絵画・彫刻等）	15	0	15
什器備品（サーバー等）	7,271,486	4,984,449	2,287,037
電話加入権	3	0	3
合 計	7,271,504	4,984,449	2,287,055

5. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	帳簿価額	時価	評価損益
国債			
第268回利付国債	3,099,807	3,242,085	142,278
第269回利付国債	40,101,721	41,758,215	1,656,494
第52回利付国債	55,000,000	55,265,155	265,155
大阪府債			
第253回大阪府公募公債	79,948,071	80,799,040	850,969
大阪市債			
平成14年度第11回公募公債	79,948,287	80,757,200	808,913
平成18年度第11回公募公債	297,510,695	313,239,563	15,728,868
平成19年第2回みおつくし債	25,000,000	25,512,500	512,500
合 計	580,608,581	600,573,758	19,965,177

6. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

内 容	金 額
経常収益への振替額	
基本財産受取利息	7,232,919
合 計	7,232,919